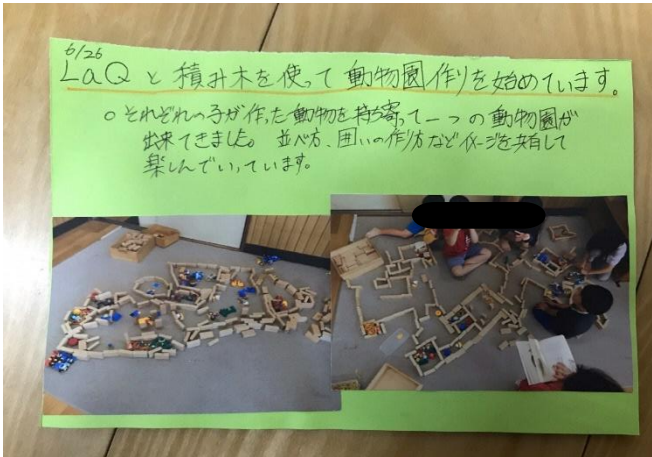
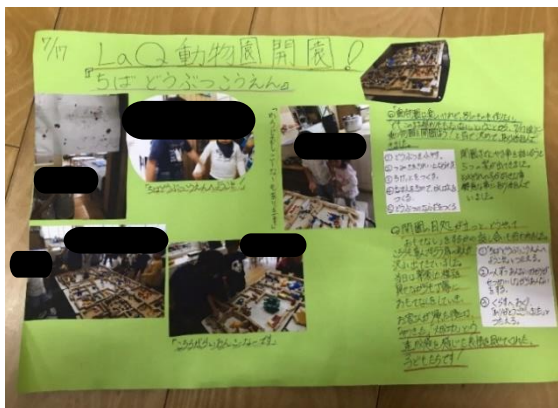


みんなで作ったラキュー動物園		(1) アプローチカリキュラムの実践
認定こども園	幸認定こども園	
<実施時期>	6, 7月	
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>		
「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」		
<活動のきっかけ>		
<p>・4, 5月と新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で子どもたちの登園はぐっと減っていたが、6月になり、子どもたちの顔もそろってきた。年長児になった嬉しさと新しく買い足したLaQブロックにすっかりはまり、いろいろな形を作り始める。</p> <p>そこからスタートした年長児クラスの1か月に及ぶ活動である。</p> <p>数人の遊びから興味を持った子へ広がり、イメージを共有し、更に広がっていった。</p>		
		
<活動のねらい>		
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自ら考え、その思いやイメージを友だちに伝えながら、力を合わせて作り上げる経験を重ねる。 ・活動を継続し、完成した達成感を味わいながら、共同性や道徳性・規範意識の芽生えを育んでいく。 ・小学校進学を前に、自ら考え行動できる力を育む。 		
<経験する内容>		
<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ友だちと一緒に同じものを作ったり、協力して違う種類の動物を作るなど、一つの目的に向かって一緒に活動しようとする気持ちが育つ。 ・自分の思いだけでなく、相手の気持ちにも気づき、折り合いを付けながら、自分たちでルールややり方、飾り方などを決め、一つの物を作り上げる経験を重ねる。 		
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>		
—		

<活動の内容>

- ・どこなら生活の邪魔にならないか、相談しながら場所を決め、机の上に動物園が広がっていく。大きくなるにつれ今まで関わっていなかった子どもたちも興味を持ち、動物園開園に向け、アイデアを出したり、手伝ったりする姿が増える。子どもの声をうまく拾いながら、クラス全員で取り組み、小さい子を招待しての動物園開園となった。



<活動でみられた子どもの姿>

- ・完成した動物をみんなで並べようと子ども同士で話し合う時間を自分たちで持ち、実際の動物園を想像しながら、仕切りを作ったり、木や池、川、小屋なども配置していった。
- ・意見を言える子だけでなく、なかなか言い出せない子にも子どもたちが気付いて声をかけ、全員の意見を聞いて作り上げようとする姿も見られた。
- ・作って完成ではなく、他のクラスの友だちや職員にも見てもらおうと、ポスターやチケットを作り、それぞれに配りに行ったり、看板作りなど、必要なものをみんなで相談しながら作る姿が見られた。

<環境構成・教材や保育者の援助等>

- ・あえて職員から事前に素材や用具などの準備はせず、子どもたちが活動中に必要だと伝えてきたものを一緒に取りに行き、選べるようにした。
- ・話し合いの中でなかなか決まらないことや色々な意見が出されたものなどは、無理に解決することなく、自分たちで考えて解決できるよう翌日にも話し合いの時間を設けたり、一人一人の思いを聞き、仲立ちになって伝え、その後の流れを見守るなどして行った。
- ・職員同士では、年長児の取り組みについて共通理解を行い、どの職員も同じ考えで子どもたちの取り組みを見守るとともに、ラキュー動物園が完成した時にはみんなで喜び合った。

<成果と今後の課題>

- ・新型コロナウイルス感染予防等もあり、小学校との連携も取れるのか、と懸念していた。園内で出来ることを、と年長担当とも話をし、年長児の心の育ちをしっかりと捉え、一人一人が自信をもって小学校進学ができるように「子どもの主体性を大切にされた保育」を展開していった。
- ・今後は小学校と連絡を取りながら、おたよりを届けたり、散歩に出かけ、通学路を歩いてみたり、小学生がいないときに校庭で遊ぶ機会を持つなど工夫をしながら小学校進学に向けて取り組んでいく。

<カリキュラムコーディネーターのコメント>

日常的な遊びに取り組む中で仲間の気持ちにも気づき、「自分」から「自分たち」の遊びへと発展しています。さらに生活など遊び以外の活動への気遣いは「身近な社会」まで意識が広がっています。主体性を育てる日々の職員の関わりが子どもの育ちにつながった素晴らしい取り組みだと思えます。